

令和7年度 市長との対話集会（国富地区）議事要旨

日時：令和7年10月24日（金） 19時00分～20時40分

場所：国富コミュニティセンター

参加者：33名

テーマ：①新幹線と共に歩む小浜市の将来像

②高齢者の移動手段（交通弱者対策）

③空き家問題と地域のつながり

④国富小学校の跡地活用

1 参加者からの主な意見

(1) 高齢者の移動手段・交通弱者対策

- ・週1回程度の医療・食料品販売の移動サービスや、移動式販売車の導入。
- ・各地区内でタクシーやマイクロバスを利用したデマンド交通の活用を検討。
- ・市民が出資するバス会社を設立し、市民が株主となることで、地域ニーズに即した交通手段を確保。

(2) 新幹線開業を見据えたまちづくり

- ・新幹線開業により、住民（通勤・通学者の増加）と観光客が増加することを期待。
- ・移住支援制度や子育て支援制度の充実、関西圏や北陸圏への通勤通学支援制度の必要性。
- ・人魚の浜から小浜公園の一角を観光エリア（例：おかげ横丁）として発展させ、観光客の呼び込みと雇用の創出。交通アクセスの検討が必要。
- ・市内で地域格差が生じないような配慮と地元住民の生活に支障が出ないような対策が必要。

(3) 空き家問題の解決と地域活性化

- ・国富の地域性（農業体験）と新幹線開業による利便性を活かし、空き家を宿泊施設として活用。
- ・旧国富小の「芝生化」ブランドを活用し、空き家をカフェやスポーツ団体等の拠点として利用。
- ・京都への通勤圏として、安価な住居を提供することで移住を促進。別荘としての活用も視野に入れ、空き家情報を積極的に発信。
- ・自動運転などの交通弱者対策が、空き家問題の解決にも繋がる可能性がある。

(4) 旧国富小学校跡地の有効活用

- ・農業地域である特性を活かし、「学校農家レストラン」（カフェ、米の食べ比べ等）を設置。
- ・災害時には防災拠点としての機能を果たせるようにすべき。
- ・グラウンドをドッグラン、アスレチック公園、オートキャンプ場、ジョギング・サイクリングコースの屋根付き休憩所として活用。
- ・民間企業（IT産業、介護施設等）の誘致や、全国最大級のコミュニティセンターの設置を検討。

(5) 新幹線がもたらす変化への対応

- ・新幹線開業によるメリット（観光客・人口増、物販増など）とデメリット（車の渋滞、若者流出、治安の悪化・ゴミ問題など）の両面を考慮したまちづくりが必要。
- ・小浜の人が地域に残り、京都・大阪・外国にもアピールできるまちを目指す。
- ・2拠点生活や、お試し移住の機会を設ける。
- ・特産品（コウノトリ米等）のブランド力をさらに磨きあげる。
- ・観光、ブランド、人作りを通じて、若者にも高齢者にも「選ばれるまち」づくりを推進。

2 市長からの主な回答

(1) 高齢者の移動手段・交通弱者対策

- ・市民出資によるバス会社設立案は非常に面白く、運転できなくても困らない地域作りのテーマに合致する。市民が株主となることで、市民の声が反映されやすい運営が可能となり、税金の仕組みに通じる側面もある。

(2) 新幹線開業を見据えたまちづくり

- ・新幹線による人口増加のポテンシャルは非常に大きく、京都まで 19 分という立地は魅力的である。川越市や佐久平駅の事例を挙げ、今後、企業による通勤・住宅手当の充実も期待できる。自然、食、教育環境の充実が移住定住の鍵であり、20 年後の「選ばれるまち」を目指し、教育・子育てに注力していく。
- ・人魚の浜から小浜公園エリアは夕日も美しく、海沿いのレストランなど、住民も観光客も楽しめる空間としてさらに活用できる可能性を秘めている。
- ・将来的な自動運転技術の普及を見据え、運転手雇用よりも AI に任せることで、人間にしかできない新たな産業創出や雇用形態の変化に対応していく必要がある。
- ・国富地域は食を支える重要なエリアであり、住民増加や観光客増加の際に「胃袋を掴む」存在としてその価値は非常に高いと認識している。

(3) 空き家問題の解決と地域活性化

- ・空き家問題を「マイナス」ではなく「プラス」に捉える視点を評価。宿泊施設化、農業体験との連携、スポーツ合宿利用、建築学生による改修プロジェクトなど、多様な活用アイデアに期待。特に建築学生による改修は全国的にも珍しい事例となり得る。
- ・別荘としての活用には、単なる安さだけでなく、アーティストや建築学生による改修で付加価値をつけることが他にはない強みとなる可能性がある。

(4) 旧国富小学校跡地の有効活用

- ・「学校農家レストラン」は淡路島で成功事例もあり、事業化の可能性はある。企業誘致の新たな形として、地域雇用や地域食材活用を通じた民間連携を推進する。市の財産である廃校が民間投資により地域シンボルとなることに期待。
- ・グラウンド活用案として、農道をランニングコース化し、ランニングステーション（シャワー・ロッカー）を併設することで、集客と健康増進に繋がる可能性がある。

(5) 新幹線がもたらす変化への対応

- ・「選ばれるまち」づくりが最も重要である。住民が誇りを持って、自ら帰ってきたくなるようなまちに、するために若い世代がアイデアを出し、チャレンジできる環境を整備する。
- ・子育て支援や教育だけでなく、市民がまちづくりに参画し、世代を超えて協力し合うことで、真に選ばれるまちが実現できると考える。